

害 障 害 味 覚

食生活にも影響

身体トラブルも原因に

味覚は加齢とともに変化していきま

す。しかし、その変化があまりに急激

で、料理を以前のようにおいしく感じなくなったら「味覚障害」かもしれません。

味覚障害は「料理の味を薄く感じる」「変な渋みや苦みを感じる」といった症状の出る病気です。このため味を濃くして塩分や刺激物を摂り過ぎてしまい、生活習慣病につながりかねない危険性があります。また、食事がおいしく感じられないことから摂食障

害に至るケースもあります。☆亜鉛不足も原因に 甘い、辛い、苦いなどの味は舌の「味蕾」という突起状の器官で感じます。この味蕾の中に「味細胞」が減少してしまふことが味覚障害の最も大きな原因です。味細胞は新陳代謝によって新しい細胞と入れ替わっていきま

す。このとき体内の亜鉛を必要とします。体内に亜鉛が不足していると、新陳代謝が低下して味細胞が減少し、味覚障害を生むと考えられます。味覚に最も関係しているの

は舌ですが、実際に味を感じるためには舌以外の口腔内の器官、さらにはそこから脳への信号を伝えるための神経も関係しています。舌に異常がなくても、身体のどこかにトラブルがあつて味覚障害を引き起こすこともあります。

☆まず耳鼻科を受診 味覚障害の診療科は主に耳鼻咽喉科です。問診を経て次のような検査を行います。①電気味覚検査 ②神経経路の異常を調べる。③唾液検査 ④血液検査

①電気味覚検査 ②神経経路の異常を調べる。③唾液検査 ④血液検査

④血液検査 ②体内の亜鉛や鉄分の値を調べる。 検査で舌(味蕾)に問題があると分かった場合は、治療として亜鉛の摂取が行われま

す。亜鉛製剤の処方による薬物療法や、食材やサプリメントから亜鉛を摂り入れる食事療法です。亜鉛を多く含む食材は牛肉、レバー、乳製品、魚介類、海藻類です。

舌以外に問題がある場合は、それぞれの病気の治療が必要で、様々な診療科間の連携が欠かせません。味覚障害は軽度のうちに治療を始めれば、比較的治りやすい病気です。味覚に異常を感じたら

軽視せずに、かかりつけ医に相談するか、耳鼻咽喉科を受診してください。

会議室で研究発表や症例検討を行いました。コメディカル部門では、チーム医療や創外固定器の基礎などについて講演とハンズオン形式の学習で知識を深めました。

本院と裏磐梯で イリザロフ法研修

整形外科医ら集う

第4回裏磐梯外傷イリザロフ法セミナーは7月19日(金)から21日(日)まで、郡山市の総合南東北病院と北塩原村の裏磐梯レイクリゾートホテルで開かれ、全国から集まった若手の整形外科医や医療従事者らが最新の骨折治療などを学びました。福島県立医科大学外傷学講座、総合南東北病院外傷センターの主催、日本メ



あいさつする松下代表

デイカルネクストの共催。イリザロフ法は、ロシアのイリザロフ医師によって開発された骨延長術で、骨折が治る時の再生力を生かした治療

法。同セミナーは総合南東北病院外傷センター長の松下隆先生(福島県立医科大学外傷学講座主任教授)が代表を務め、整形外科領域の医師らが創外固定や創内固定の器具を駆使して行う最新の外傷治療や運動再建について学ぶ目的で毎年開いています。

初日は本院北棟1階NAB Eホールで開会、松下代表があいさつしました。この後、医師部門はNAB Eホールで、今回から新設したコメディカル部門は北棟6階第5

もの忘れ外来開設 第3土曜、予約制



東北医療クリニックは「もの忘れ外来」を開設しま

した。診療日は第3土曜日で午前・午後の予約制。東京医科大学高齢診療科主任教授の羽生春夫先生 Ⅱ写真Ⅱが担当します。

MRIやSPECTなどの画像検査や神経心理学的検査により、認知症の早期発見、鑑別診断を行います。脳血管障害がみられる場合は脳画像による病変の検索も行います。急性期では診断と治療、慢性期では併発や合併症の予防に力を入れ、QOL(生活の質)の向上を追求します。必要に応じて、当院の他の診療科とも連携し診療を進めます。

身体面ばかりでなく、精神・心理、生活機能、社会環境などの観点から総合的な診療を行います。受診の予約は予約専用電話フリーダイヤル0120(14)5420へ。 ※現在他院に通院中の方は可能な限り紹介状をご持参ください。 ※受診の際は可能な限り、ご家族や同居されている方の同席をお願いします。